

●「受動喫煙を語る県民のタベ」

松沢成文氏、ふたたび浜松で熱く語る！

加藤一晴

こどもをタバコから守る会・代表
浜名医師会・理事

はじめに

「その日は箱根にいるから……行けないことはないが……」。本年7月28日に松沢事務所を訪ねた時のことです。塚本副代表、大谷理事と共に松沢氏に「こどもをタバコから守る会・名誉顧問」の就任を依頼し、快諾いただきました。もうひとつのお願い「浜松での講演」もしてみたの



です。そうしたところ上記の返事がありました。浜松に戻って、企画案をスタートさせました。

昨年10月開催した「受動喫煙防止サミットIN浜松」は、このテーマが如何に重要であるのかを大勢に伝えることができました。県下全域のみならず、東京、千葉、神奈川、愛知や大阪市などからの参加者があり、現在審議中の兵庫県担当者も聴講されました。来場者500名は松沢氏の粘り強い手法に心を打たれたのです。今回の企画名は「受動喫煙を語る県民のタベ」とし、主催は「こどもをタバコから守る会」、静岡県や浜松市の後援も取り付けました。会場は浜松駅前の静岡新聞／静岡放送プレスタワー17Fホール。(株)杏林堂薬局と「こどもをタバコから守る会」が主催。

コから守る会」作製のポスターを準備しました。東京交通新聞8/29、毎日新聞9/16、静岡新聞びぶれ浜松9/8にも掲載され、昨年同様に浜松・豊橋のケーブルTVで放送されました。

中日新聞「発言」8/30、静岡新聞「ひろば」9/6に拙稿が掲載され、問題提起と情報流布いたしましたところ、「また松沢氏の講演があるのか」と各方面からの声がありました。企画開始してから50日足らず、開催日は3連休中日でしたが、考えられるすべての方策を講じました。

前座講演と公人メッセージ

冒頭に、「こどもをタバコから守る会・名誉顧問 林 望氏」からのメッセージを披露し、小生と総合同

熱心に耳を傾ける参加者。
静岡放送プレスタワー17F
ホールにて。



会の大谷理事による（受動喫煙の有害性）を伝えました。また、榛葉賀津也参議院議員、城内実衆議院議員、湖西市長・三上元氏からメッセージが届き、さらに就任したばかりの厚生労働大臣・小宮山洋子様からの書簡披露には、会場は水を打ったように静まりました。

浜松駅ホームに到着する時刻に合わせ、スタッフ5名が「禁煙は愛」ノボリを持参し出迎えました。彼は

一刻も早く会場での講演を希望し、早足でプレスタワーまで到着したようです。タワー外で待ち受けていたスタッフに「お世話になります」と挨拶をし、そのまま登壇されました。心身ともにエネルギーでないと政治家は務まらないのかも知れません。

現在、筑波大学・明治大学・聖マリアンナ医科大学の非常勤講師として着任していますが、我が国の将来に一石を投じたい気持ちが伝わってきます。そうした想いが、社団法人「スモークフリーージャパン」
<http://smokefree.or.jp/smokefree/>の立ち上げにつながり、微力ながら今回のイベントも松沢氏の後押しになればと思いました。

■松沢氏講演 スモークフリー社会を目指して

知事就任2期目のマニフェストに掲げたのは、海外と我が国のタバコ事情が全く違うことを痛感したからです。国際的なタバコ規制は、2005年に発効した「たばこ規制枠組

み条約」がありますが、我が国の動きは低調です。「国が動かなければ神奈川県から」の意気込みで準備を開始しました。

当初、アンケートでは賛成が多かったのに、パチンコ業界、飲食店組合は強硬に反対していましたし、県議会も反対意見でした。県内の自治体からも異論噴出したことから、この問題の根深さが垣間見られます。しかし、粘り強くタウンミーティングを開催し、各団体組織の会合で神奈川県としての方針を伝えることに意欲を燃やしました。合意形成にはかなり時間が掛かり、「骨子案」「素案」「修正案」に移行するうちに、事実上配慮する形にはなりました。しかしながら時間をかける成果が現れ、県民の認識もかなり変わってきました。県民の代表である県議会議員にも自分たちの支援者の動向（賛成が80%）が伝わり、高い次元の合意形成がなされるようになりました。最終的に「小規模飲食店には配慮する」格好で、議長幹旋として、議会を通過しました。

その後、条令制定の応援団（スモークフリーサポーターズクラブ）や、喫煙率低減に向けた「かながわ卒煙塾」も開催することができたのです。今では民意の高揚により神奈川県下海水浴場も喫煙対策が講じられています。結果的に松沢氏は52歳で「受動喫煙防止条例」を制定したことになります。我が国では前人未到の快挙です。

質疑応答

様々な意見が聞かれ、松沢氏はその都度真摯な回答をされました。恐らくかつて神奈川県下で繰り広げられた「県民タウンミーティング」の再来だったでしょう。そこで浮き彫りに



精力的に講演をする松沢成文氏

なったのは、我が国が国策として事業展開しているタバコ事業を、このまま座視できるだろうかということ です。やはり草の根活動を続けることと世論形成がなされ、その民意の高まりを汲む形でないと、行政は動けません。幾つかの質問がありました。が、かつてケネディ大統領の演説に「祖国があなたに何をしてくれるかを尋ねてはなりません、あなたが祖国のために何をできるか考えて欲しい」を彷彿させました。まず地域住民の民意を高揚させなければ、前に進まないことを確認いたしました。

遠方からの参加者と講演後サイン会&記念写真

昨年の受動喫煙防止サミットに参加されなかった秋田・群馬・千葉・愛知・京都・愛媛の方々もかなり満足されたようです。それぞれが各地を代表する禁煙策士で、松沢氏の人となりを知り、壇上での熱き想いを認識したのでしよう。

終了後に「それでもタバコを吸いますか？」のサイン会がありました。

松沢氏はひとりひとりに丁寧に対応され、集合写真でも全員の満足した表情が伺い知れました。

近くの禁煙うなぎ料理店（うな炭亭）で懇親会を行ないましたが、予め段取りを決めていたので短時間に46名が席に付くことができました。

ほとんどがお互いの顔を知らないはずなのですが、各人が同じスタンスなのでここでもテーブルを囲んで、和やかな雰囲気でした。

それぞれに短時間の自己紹介をしていただきましたが、毅然としたメッセージが伝えられました。

おわりに

全国展開を期する松沢氏の応援企画として、昨年まず「こどもをタバコから守る会」が名乗りを上げ、「受動喫煙防止サミットIN浜松」を開催しました。今回はそれに続く第二弾です。1年間のうちに2回も松沢講演を聴くことができました。浜松の地で開催した「受動喫煙を語る県民の夕べ」が、更なる全国展開の位置づけになったことは嬉しい限り

りです。今後、秋田・豊橋・京都・愛媛からも今回のようなタウンミーティングのような企画が続くことを期待します。

浜松駅改札口で、ニッコリ微笑みながら手を振った松沢氏をお見送りすることができました。最後になりましたが、支援してい

●マスメディアの揚げ足取りに呆れる

TVのニュースを聞くだけでは政治への意識は高まらない

立川英人 東京都世田谷区

震災後、大臣の「失言報道」を何度も耳にするが、いい加減、その手の報道には飽き飽きしてきた。一体マスメディアは、いつまでこのような政治家の揚げ足取りを繰り返すつもりだろう。

「失言」とされる言葉だけが誇張されて取り上げられているが、その言葉の前後の会話を聞くと、本当にそこまで騒がなければいけないかった発言であったのか、首を傾げたくなる。

TVからは、野党議員がここぞとばかりに、「被災者の気持を考えての発言ではない、辞任しろ」と、声を荒げる姿が流れてくる。勿論、大

臣の立場にある人は、言行動作を正さなくてはいけないが、被災者の気持を考えると言うのであれば、「彼らが国会に望んでいるのは、与野党の足の引張り合いではなく、復興のための建設的な意見の交換であるはずですよ」と言いたくなる。

野党議員は民主党を批判することによって、民主党の支持率を下げ、政権を再び手にしたいのだろうか、TVから流れてくる彼らの映像が、いつも誰かを批判している映像ばかりでは、いくら民主党が頼りないからと言っても、代わりに彼らに任せようという気も起きてこない。

一般市民の政治への参加意識がよ

ただいた(株)杏林堂薬局、ノバルティスファーマ株式会社、静岡新聞ホール21世紀クラブ、うな炭亭の皆様感謝します。

り以上求められている時だけに、マスメディアが受け持つ責任は重い。同時に、我々一般市民も、情報を得る方法を、視聴率稼ぎのTV番組だけに偏らせるのではなく、多角的な方面から貪欲に知識を得て行かなければいけない。政治への参加意識を高めたいと願っているのであれば。

防腐剤の入らない
健康食品麺製造



(株)蜂屋 北海道旭川市3条15丁目左8号
でんわ0166(23)3729